

2009年8月19日

都議会議員〇〇殿

都立定時制高校を守る会・連絡会

代表 森 光男

中学生が都立高校に入れない？～定時制高校も一杯

都立高校「就学計画」についての緊急要請

日頃より、都立高校発展のためご尽力されていることに敬意を表します。

私たちは、「都立高校定時制を守る会・連絡会」と申します。1994年以来、「定時制の灯を守ろう」を合い言葉に都立定時制高校の存続と充実を求めて運動を続けて来ました。今、定時制高校が異常事態を迎えています。今日の事態をご理解いただき、改善のためにご尽力下さるよう要請致します。

東京都教育委員会（以下、都教委）は、過去何回も定時制高校の統廃合を行って来ましたが、特に1997年からの「都立高校改革推進計画」によって当時100校あった定時制高校が55校に半減しました。例えば、八王子地区は三部制の定時制が一つ新設されたのと引き替えに4つあった夜間定時制は全て閉校となりました。また、中央線沿線にある普通課程の夜間定時制は立川高校一校だけになりました。山手線の中にある夜間定時制は工芸高校1校です。

その結果、定時制の入試が異常事態となってきたのです。従来、夜間定時制は、行き先を失った生徒達が入れるセーフティ・ネットの役割を果たしてきました。基本的に入試倍率は1倍を超えることなく、希望する生徒を全員受け入れてきたのです。しかし、ここ数年、一次入試で1倍を超える定時制が出始め、さらに二次募集ではかなりの定時制で定員をオーバーする事態になってきました。そしてついに2009年3月の定時制二次募集において多摩地区では、一校を除き全ての夜間定時制で定員をオーバーし、数十人の中学生が行き場を失ったのです。島嶼地域を除くと、普通科では全都的で約半数の定時制高校が定員を越え、全他の応募倍率は0.996倍になったのです。都内の定時制は満杯状態と言わざるを得ません。これは明らかに夜間定時制はもとより、都立高校全体の数を減らしすぎた結果であり、都教委がすすめてきた統廃合計画の破綻を示しています。

この様な時、都教委は今後10数年間にわたる「都内公立中学校卒業生数の増加」についての見通しを発表しました。それによれば、来年の全日制は72学級増が必要となっています。さらに、学級増のピークになる平成26～28年度には248学級増が必要とされています。この学級数は1学年8クラス校に換算して約10校分に相当する驚くべき数字となっています。これはまさに都教委の見通しが大きく狂ったことを示しています。

臨時増学級は今年度入試から始まりました。今年度は14校15学級増で募集が行われましたが、その結果が先の定時制の状況となったのです。これだけの生徒増を臨時増学級だけ

でのりきろうとするのはあまりにも無責任です。現場の都合も生徒の教育条件も考慮しないものと言わざるを得ません。今必要なことは、都教委として「改革推進計画」を真摯に総括し、廃校にした学校の募集再開を含め抜本的に計画を修正することではないでしょうか。

こうした本質的な検討をせずに全日制の臨時増学級でつじつまをあわせるのでは、定時制へのしわ寄せと矛盾は今年以上に大きくなるでしょう。

事態は急を要します。来年の入試には今年よりも4000人以上多い中学生が受験すると予想される中、多くの中学生が行き場を失うことがないように、都議会でも直ちに議論し、早急に改善に向け取り組んでくださいますようお願いいたします。

記

1. 都教委に改革推進計画の総括を求め、事態の責任と改善策を明らかにさせてください。
2. 全日制の募集枠拡大とともに、夜間定時制高校の受け皿を大きくすることが必要です。臨時増学級方式は全日制でも問題が多いものです。まして、定時制高校の実態を踏まえて、その教育力を低下させないように定時制生徒募集枠を拡大するためには増学級方式ではとても無理です。定時制の募集停止校にはまだ定時制関連施設が残っています。募集再開を含めた募集拡大のための施策を講じて下さい。

以上